

## 第1章 観光を取り巻く情勢と観光の現状

### 1. うるま市の観光を取り巻く環境

#### 1.1 社会動向及び関連動向

- わが国は、“観光”を21世紀における重要な施策の柱と位置付け、旧「観光基本法」(昭和38(1963)年)を全面改正し、「観光立国推進基本法」が平成19(2007)年1月から施行されました。
- 平成29(2017)年に閣議決定された新たな「観光立国推進基本計画」では、「世界が訪れたいくなる日本」へと飛躍するための基本方針として、国民経済の発展、国民生活の安定向上、国際相互理解の増進及び災害、事故等のリスクへの備えを掲げています。
- また、観光関連の新たな財源として、平成31(2019)年に「国際観光旅客税」が創設されたことで、日本における旅行環境の整備と充実が進展しています。
- 令和2(2020)年には、新型コロナウイルス感染症の流行により経済的損失を被った旅行業界や国内旅行の再活性化を目的として「GoTo トラベルキャンペーン」が開始されました。新型コロナウイルス感染症再拡大の影響で一時的に停止されましたが、令和4(2022)年10月から、政府の財政支援を受けて各都道府県が実施している観光需要喚起策として、「全国旅行支援」が開始され、沖縄県では、旅行支援「おきなわ彩発見 NEXT」を展開しています。

#### 1.2 沖縄県の観光動向

##### (1) 沖縄県の観光施策

世界から選ばれる持続可能な観光地 -世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-の実現を目指しています。

- 沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置づけ、昭和51(1976)年度から「観光振興基本計画」を策定し基盤整備等を進めてきました。
- 「第6次沖縄県観光振興基本計画」(令和4(2022)年7月)は、沖縄県観光振興条例第7条に基づき、沖縄観光の目指す将来像(VISION)「世界から選ばれる持続可能な観光地 -世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-」の実現に向けて、以下の具体的な目標値(OUTCOMES)を定めています。

##### ＜社会の視点＞

県民の幸せ感 90% / 観光事業者の満足度 80% / 観光客の満足 80%

##### ＜経済の視点＞

観光収入 1.2兆円 / 人泊数(延宿泊者数) 4,200万人

観光事業者(正社員・正規職員)20代の平均年収 280万円

観光事業者における役職者(部長級・課長級・係長級)の平均年収 448万円

##### ＜環境の視点＞

観光関連施設等における再生可能エネルギー対応施設数 100件

宿泊施設におけるアメニティグッズ廃止を導入している施設数 100件

「3010」運動(フードロス削減)を推奨しているホテル数 100件

中部圏域では、歴史文化の継承・発展及び観光振興や生活環境基盤等の充実及び島しょ地域の振興等の取り組み等を基本方向としています。

- 「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」(令和4(2022)年5月)の「圏域別展開-中部圏域-」では、歴史文化の継承・発展及び観光振興や生活環境基盤等の充実及び島しょ地域の振興等の取り組みを基本的な考え方としています。
- 歴史文化の継承・発展及び観光振興においては、異文化が融合する圏域の特性を生かした観光振興やスポーツコンベンション地域の形成等の取り組みが掲げられています。
- 生活環境基盤等の充実及び島しょ地域の振興においては、周辺離島における定住条件の整備及び地域活性化等の取り組みが掲げられています。

沖縄の強みである豊かな自然環境や独自の歴史、文化等のソフトパワーを最大限に発揮するコンテンツを造成することで「安全・安心で快適な島沖縄」を実現し、国内外において「世界から選ばれる持続可能な観光地」として認知された状態を将来像達成のイメージとする。

- 沖縄県では、「安全・安心で快適な島沖縄」を実現することを目指しています。
- 「第2次沖縄県観光危機管理計画」(令和4(2022)年3月)は、以下の観光危機管理体制を整備することにより安全・安心で快適な観光地としての沖縄観光ブランドを構築し、「世界から選ばれる持続可能な観光地の形成」を図ることを目的としています。

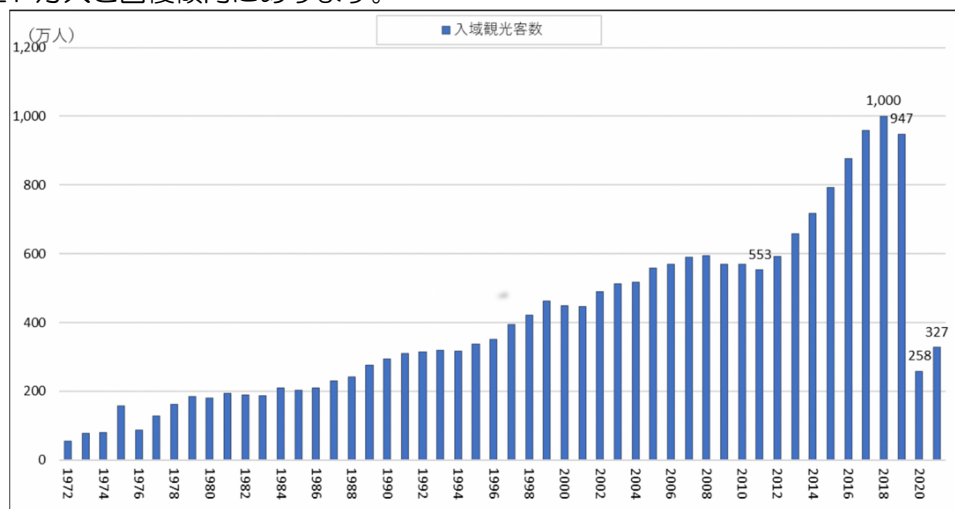
- ・観光産業に負の影響を与える観光危機に対し、県、市町村、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、観光関連団体・事業者、県民等の各主体が、観光危機管理の役割と行動を認識し、各主体が連携して対応できる体制
- ・危機への減災対策、危機に備えた定期的な訓練等の実施、危機発生時の観光客への的確な情報発信、避難誘導・安全確保、帰宅困難者対策、危機発生後の風評被害対策、観光産業の早期復興・事業継続支援等を迅速かつ確実に実施できる体制
- ・観光産業に影響を及ぼす様々な危機の被害を最小化するため、
  - ① 平常時の減災対策 (Reduction)
  - ② 危機対応への準備 (Readiness)
  - ③ 危機への対応 (Response)
  - ④ 危機からの回復 (Recovery)の4段階(4R)において、県、市町村、OCVB、観光関連団体・事業者及び県民が一体となって、最善の対策を取ることができる体制

(2) 沖縄県観光の現状

入域観光客数は新型コロナウイルスの影響により、令和2（2020）年2月以降大幅に減少していますが、令和3（2021）年から徐々に回復傾向にあります。

■ 平成20（2008）年のリーマンショック以降の景気低迷、インフルエンザの流行、平成23（2011）年の東日本大震災の影響などもあり、入域観光客数は一時期落ち込みましたが、平成24（2012）年度以降再び増加に転じ、平成30（2018）年度には過去最高の約1,000万人となりました。

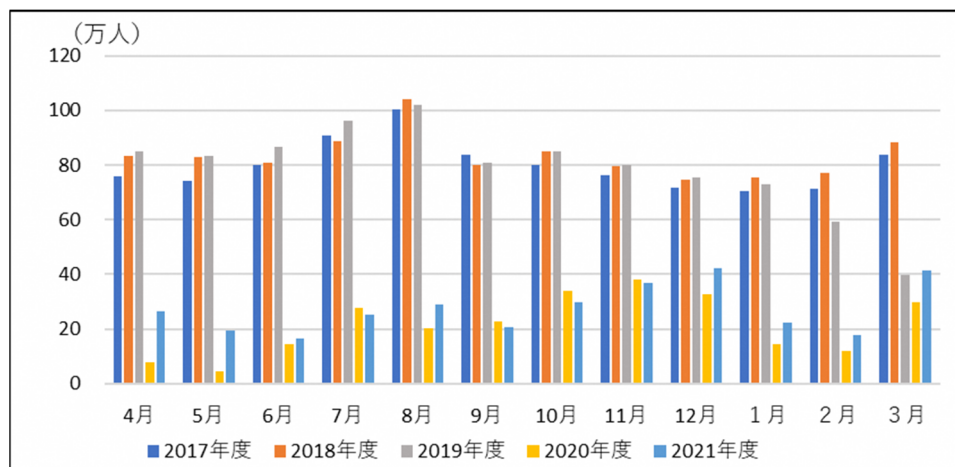
■ しかし、平成31（2019）年度は、新型コロナウイルスの影響により、2月以降大幅に減少し、約947万人となり、続く令和2（2020）年度は、約258万人と2年連続で減少となり、昭和63（1988）年度に次ぐ低水準まで落ち込んでいます。その後、令和3（2021）年度は、約327万人と回復傾向にあります。



入域観光客数の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

■ 月別入域観光客数の推移では、令和2（2020）年度は全ての月で前年同月を大幅に下回ったものの、令和3（2021）年度は12月以降回復傾向にあります。



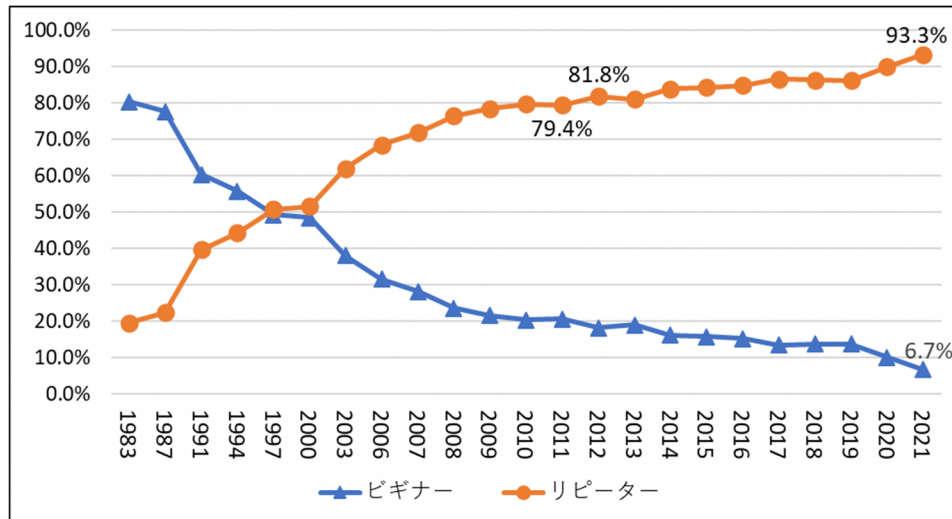
月別入域観光客数の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

沖縄県のリピーター率は、8割を超えて推移しています。

■沖縄県を訪れる国内観光客のリピーター（再来訪者）の比率は年々増加傾向にあり、平成 24（2012）年度には8割を超えました。

■令和3（2021）年度のリピーター率は93.3%と9割を超える結果となっています。



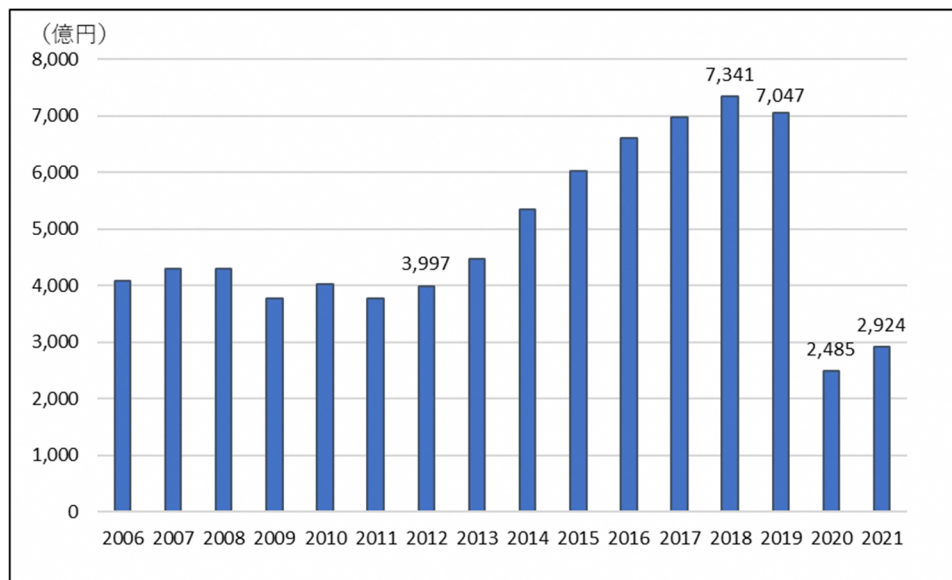
リピーター率の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

観光収入は大幅に減少したのに対して、観光客一人あたり県内消費額は過去最高を更新しました。

■観光収入は、平成 24（2012）年度以降増加を続け、平成 30（2018）年度には 7,341 億円となりました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、令和 2（2020）年度には、2,485 億円まで減少しています。その後、令和 3（2021）年度には、2,924 億円と回復傾向にあります。

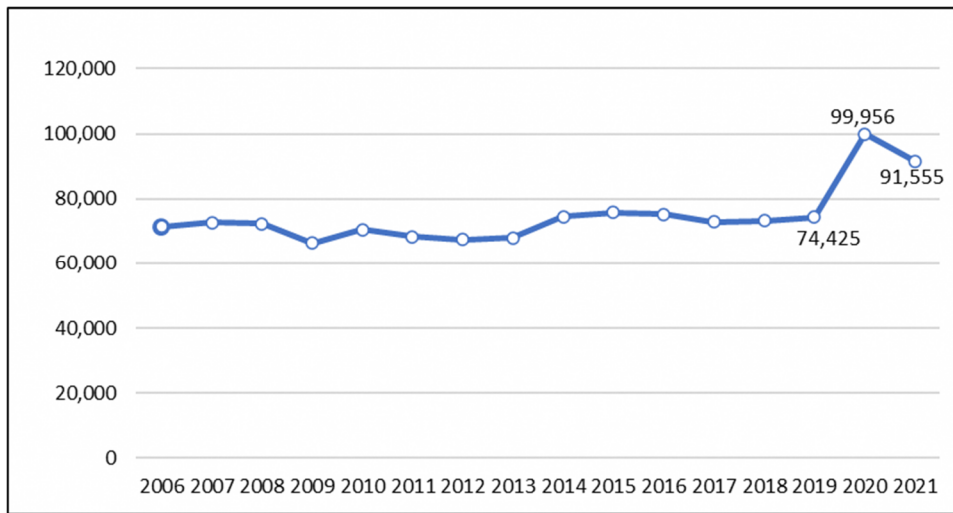
■観光客一人あたりの県内消費額は、7万円台で推移していましたが、令和 2（2020）年度には、99,956 円と大幅に増加しています。



観光収入の推移

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）





観光客一人あたり県内消費額

出典：「令和3（2021）年度版観光要覧」沖縄県（令和5（2023）年1月）

### 1.3 市内観光拠点の整備状況と公民連携の可能性

第2次うるま市観光振興ビジョン策定後、うるま市内では、新たな観光拠点の整備が進められてきました。本ビジョンにおいては、観光拠点の整備を踏まえた、推進体制や取組施策の対応部署等を現状に見合った計画へと改定していきます。

		
うるマルシェ	東照間商業等施設	総合アリーナ
平成30（2018）年11月1日	令和3（2021）年10月10日	令和10（2028）年供用予定
		
あまわりパーク	浜比嘉島交流拠点施設	中部東道路
令和3（2021）年10月14日	令和4（2022）年7月2日	未定

## 2. うるま市の関連計画の整理

本ビジョンの策定に伴い、第2次うるま市観光振興ビジョン（平成29（2017）年3月）以降に、策定された計画との整合を図りました。

整理した上位・関連計画は以下の通りです。

No.	名称	発行者	発行年度
1	第2次うるま市総合計画（後期基本計画）	うるま市	令和3（2021）年度
2	第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略	うるま市	令和2（2020）年度
3	第2次うるま市産業振興計画	うるま市	令和3（2021）年度
4	うるま市交通基本計画	うるま市	平成30（2018）年度
5	うるま市観光危機管理計画	うるま市	令和3（2021）年度
6	第2次うるま市都市計画マスタープラン	うるま市	令和4（2022）年度
7	うるま市石川地域まちづくり推進計画	うるま市	令和4（2022）年度
8	うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画	うるま市	令和4（2022）年度

### （1）第2次うるま市総合計画（後期基本計画）【令和3（2021）年度】

#### 【概要】

基本構想を実現するための分野ごとの方針や主要な施策、達成すべき目標を定めた計画

#### 【関連項目（抜粋）】

第2章 基本目標別施策＞基本目標3：まちの活力を生み出す産業づくり  
 施策3-3：観光の振興基本施策

#### 主な取り組み方針

- 方針1 観光振興の取組みを推進
- 方針2 東海岸を新しい観光として整備・充実

#### 成果指標

- ・主要観光施設の来場者数（勝連城跡・あやはし館・東照間商業等施設）  
 現状値（令和2（2020）年度）：317,357人  
 →目標値（令和8（2026）年度）：520,000人
- ・プロスポーツ等の誘致による経済波及効果額  
 現状値（令和2（2020）年度）：27,128千円  
 →目標値（令和8（2026）年度）：59,682千円
- ・教育（修学旅行や遠足、校外学習など）旅行等の誘致数  
 現状値（R2年度）：210件→目標値（R8年度）：215件

### （2）第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略【令和2（2020）年度】

#### 【概要】

うるま市における人口減少対策や地域活性化を図ることを目的とした計画

#### 【関連項目（抜粋）】

3 施策の展開＞基本目標1 魅力ある安定した雇用の場を創出する  
 基本施策1-3 観光関連産業の活性化＞（1）重要業績評価指標（KPI）

- ・勝連城跡の来場者数  
 現状値（令和元（2019）年度）：168,405人  
 →目標値（令和6（2024）年度）：216,000人

### (3) 第2次うるま市産業振興計画【令和3（2021）年度】

#### 【概要】

これまで取り組んできた産業振興施策の効果や社会経済情勢の変化を踏まえ、本市の産業の課題を明らかにしたうえで、柔軟かつ的確に対応した実効性の高い産業振興施策を展開し、市全体の産業振興の実現と豊かな市民生活の実現を図る計画

#### 【関連項目（抜粋）】

#### 第5章 産業振興施策＞地域の強みを活かした“うるまツーリズム”の形成

##### 施策1 地域における受入態勢の構築

- ①地域事業者と連携した受入体制構築支援、②着地型観光推進の人材育成の計画支援
- ③市内事業者のマッチング支援、④外部人材の活用支援
- ⑤民泊事業の推進、⑥既存施設等の活用（官民連携による誘致検討）

##### 施策2 “うるまツーリズム”の形成に向けた着地型プログラムの創出

- ①スポーツコンベンションの推進、②サイクルツーリズムの推進
- ③勝連城跡を生かした文化ツーリズムの推進、④観光闘牛の推進
- ⑤新たなツーリズムの創出

##### 施策3 PR・プロモーションの強化

- ①国内外への魅力的なプロモーションの推進

### (4) うるま市交通基本計画【平成30（2018）年度】

#### 【概要】

本市総合計画や都市計画マスタープランで掲げる将来像実現のため、観光資源を活かせるよう観光周遊ネットワークの構築等の課題解決に向けて、交通街づくりの観点から策定された計画

#### 【関連項目（抜粋）】

#### 基本方針V：魅力があり、使いやすい道路交通空間の創出＞3. 将来交通ネットワーク道路整備の方針（基本方針V関連）

- ・島しょ部のみならずうるま市全体における自転車ネットワークの整備を行う

#### 成果指標

##### ・主要観光施設（勝連城跡）の観光客数増

現況値（平成29（2017）年）：174,421人／年→目標値（短中期令和12（2030）年）：26万人／年 目標値（中長期2040年）：35万人／年

### (5) うるま市観光危機管理計画【令和3（2021）年度】

#### 【概要】

観光危機管理体制を整備することにより安全・安心で快適な観光地としての沖縄観光ブランドを構築し、「世界から選ばれる持続可能な観光地の形成」を図ることを目的とした計画

#### 【関連項目（抜粋）】

#### 第3章 基本方針と取り組むべき対応＞1. 観光危機管理の基本方針

- ・基本方針1：平常時の減災対策（Reduction）
- ・基本方針2：危機対応への準備（Readiness）
- ・基本方針3：危機への対応（Response）
- ・基本方針4：危機からの回復（Recovery）

#### 第5章 観光危機管理体制

- 1) 本市の体制
- 2) 観光関連団体、観光関連事業者の体制
- 3) 国・県及び近隣市町村との連携

(6) 第2次うるま市都市計画マスタープラン【令和4（2022）年度】

【概要】

都市づくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、個別具体の都市計画の指針として地区別の将来のあるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針を明らかにする市町村のマスタープラン

【関連項目（抜粋）】

石川地域<①北部東地域>【地域将来像】

- ・豊かな自然と調和した文化を彩る集約型都市の形成

【基本方針】

- ・本市の北の玄関口として、交通及び物流拠点の形成
- ・アクセス性の高さを生かした滞在型観光空間の創出及び交流人口を増進する産業集積

石川地域<②北部西地域>【地域将来像】

- ・豊かな自然と伊波城跡などの歴史文化が織りなす活力とやすらぎのあるまち

【基本方針】

- ・自然環境を活用した観光等産業誘導による地域活性化

具志川地域<③中部北地域>【地域将来像】

- ・人と風土がつくるやすらぎとふれあいのまち

具志川地域<④中部南地域>【地域将来像】

- ・県中部都市圏の発展と定住を牽引し、歩いて楽しい賑わいのあるまち

具志川地域<⑤南部臨海地域>【地域将来像】

- ・商工業・農業・住環境が調和し、人々の交流と活力のあるまち

【基本方針】

- ・観光交流拠点となりうるマルシェ等の交通結節機能の強化

勝連地域<⑥東部地域>【地域将来像】

- ・豊かな自然環境を守りながら、勝連城跡などの歴史伝統文化を活用した賑わいのあるまち

【基本方針】

- ・歴史・文化や自然が持つ観光資源と住環境が共存した、うるおいと賑わいのあるまちの形成
- ・勝連城跡周辺のまちづくりから生まれる新たな交流と発展の創出

〇島しょ地域【地域将来像】

- ・多様な資源を活用した地域振興による賑わい魅力ある島々

【基本方針】

- ・交流人口・関係人口の増加
- ・自然・歴史・文化的景観を活用した魅力ある観光拠点の形成
- ・地域資源を活用した移住・定住の促進
- ・地域振興に結びつく交通ネットワークの構築



(7) うるま市石川地域まちづくり推進計画【令和4（2022）年度】

【概要】

「公民連携による地域の経済活性化」に主眼を置き、地域の将来像やまちづくりの基本方針を明確化している。プロジェクトの実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりに繋げることを目的としている

【関連項目（抜粋）】

第4章 石川地域の目指す姿

2. 石川地域の将来像

中南部と北部をつなぐゲートウェイとして多くの人が訪れ暮らす賑わいのあるまち

4. まちづくり推進に向けたプロジェクト

プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ※★

プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」 ※★

プロジェクト3「石川市民の森公園のリニューアル」

プロジェクト4「子育て・福祉」複合施設の整備」

プロジェクト5「国道329号沿道の新たな土地利用」 ※★

プロジェクト6「（仮称）うるまICの整備推進及び新たな産業誘致の検討」

プロジェクト7「東恩納周辺の新たな土地利用」

※★印は石川地域の将来像の実現に向けたまちづくりを進めていくうえで重要なプロジェクト（リーディングプロジェクト）として位置づけている。

(8) うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画【令和4（2022）年度】

【概要】

「公民連携による地域の経済活性化」に主眼を置き、地域の将来像やまちづくりの基本方針を明確化している。プロジェクトの実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりに繋げることを目的としている

【関連項目（抜粋）】

第4章 勝連・与那城地域の目指す姿

2. 勝連・与那城地域の将来像

歴史・文化・自然などの特色ある地域資源が継承され、多くの人を惹きつける魅力あふれるまち

4. まちづくり推進に向けたプロジェクト

プロジェクト1「勝連城跡周辺の魅力向上」 ※★

プロジェクト2「海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上」 ※★

プロジェクト3「旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進  
～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～」 ※★

プロジェクト4「勝連地域における既存ストックの利活用推進」

プロジェクト5「きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築」

プロジェクト6「島しょにおける民間活力導入の推進」

プロジェクト7「広域からの誘客促進及び回遊性向上」

※★印は勝連・与那城地域の将来像の実現に向けたまちづくりを進めていくうえで重要なプロジェクト（リーディングプロジェクト）として位置づけている。

### 3. うるま市の観光の実態

#### 3.1 地域資源及び観光入込客数

##### (1) 主な観光資源

うるま市における主な観光資源は以下の通りです。

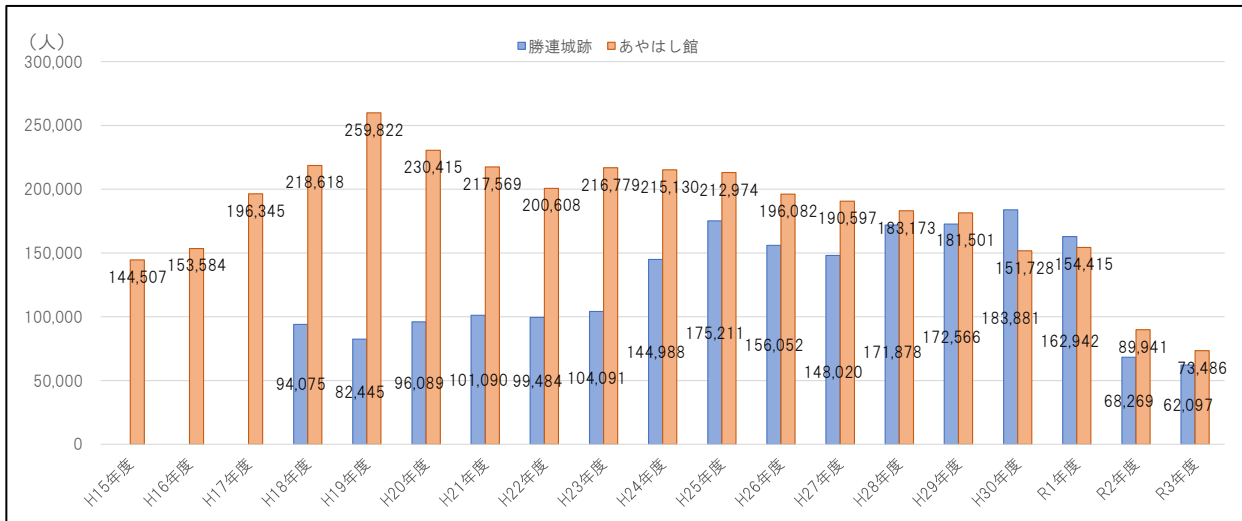


出典：うるま市観光マップ（うるま市観光物産協会）

##### (2) 観光入込客数

■勝連城跡の入域観光客数は、平成 18 (2006) 年度から緩やかに増加していたものの、平成 30 (2018) 年度をピークに減少。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和 2 (2020) 年度、令和 3 (2021) 年度は平成 30 (2018) 年度の半分以下と、入域観光客数は大きく減少しています。

■あやはし館の入域観光客数は、平成 15 (2003) 年度から増加していたものの、平成 19 (2007) 年度以降、入域観光客数は緩やかに減少しています。また、勝連城跡と同様に 令和 2 (2020) 年度では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和 2 (2020) 年度、令和 3 (2021) 年度は平成 19 (2007) 年度の 1/3 程度と、入域観光客数も更に減少しています。



出典：うるま市 HP「うるま市観光の推移」及び市提供データ

### 3.2 観光客・市民・事業者を対象としたアンケート調査結果からの示唆

本ビジョンを検討するにあたり、観光客アンケート・市民アンケート・事業者アンケートより、うるま市の観光特性を整理しました。

**【観光客アンケート調査】**

◇調査対象：18歳以上の県内外の観光客かつコロナ禍以降（令和2（2020）年度4月以降）に来訪した方。

◇調査方法：WEB調査

**【市民アンケート調査】**

◇調査対象：無作為抽出した3,500人の18歳以上のうるま市民を対象。765票を回収。

◇調査方法：郵送による調査及びWEB調査

**【事業者アンケート調査】**

◇調査対象：うるま市内の事業者（約100事業者）を対象とし、42事業者より回答。

◇調査方法：郵送による調査及びWEB調査

＜観光客アンケート調査より得られる示唆＞

過年度の観光客アンケート調査との比較を行い、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間（以下、コロナ禍と略す）の前後の観光客の動向の変化等を把握しました。コロナ禍は令和2（2020）年度4月以降としました。

＜観光入込客数＞

■勝連城跡は、平成18（2006）年度から緩やかに増加していたものの、平成30（2018）年度をピークに減少しています。あやはし館の入域観光客数は、平成19（2007）年度以降、入域観光客数は緩やかに減少しています。両施設ともにコロナ禍以降は大幅に減少しています。

＜観光客の属性＞

- 居住地は「関東地方」が多く、次いで「近畿地方」が多くなっています。過年度と比較すると「関東地方」、「近畿地方」のみが増加し、その他の地方が減少しています。
  - 市内への泊数は「日帰り」が最も多く、次いで「1泊」が多くなっています。過年度と比較すると「日帰り」「2泊」「5泊以上」が増加し、「1泊」が減少しています。
  - 来訪目的は、「観光地巡り」が最も高く、次いで「沖縄料理を楽しむ」などが続いています。過年度と比較すると「観光地巡り」が減少し、「仕事」、「離島巡り」が増加しています。
  - 来訪箇所は、「海中道路」、「海の駅あやはし館」、「ビオスの丘」への訪問が多くなっています。過年度と比較すると「果報バンタ」「ぬちまーす」「離島」が増加し、「ビオスの丘」「海、マリンレジャー」「勝連城跡」は減少しています。
- ※【平均訪問箇所数】令和4（2022）年度：2.6箇所、平成28（2016）年度：2.4箇所

＜観光満足度＞

■満足度の傾向は過年度と変わらず、大変満足割合は、「海の美しさ」が一番高く5割を超えています。次いで「景観」となっております。過年度と比較し、「土産」、「食事」の「大変満足」は減少しているものの、やや不満・とても不満の割合も減少しています。

【観光客・市民・事業者アンケート調査より得られる示唆】

＜うるま市観光の将来像＞

■観光客「地域の食材を活かした食」、市民「県内客・地元住民を楽しめる」「伝統芸能やイベントを活かす」、事業者「緑や海などの自然豊か」「マリンレジャーや琉球文化等の様々な体験が楽しめる」が他より高くなっています。

＜うるま市の観光振興に必要なこと＞

- いずれも「交通アクセスの充実」は最も高い項目となっています。
- 観光客「商店等の充実」「宿泊施設の充実」、市民「環境の整備（地域の美化等）」、「行事やイベントの充実」「伝統や歴史文化の継承」、事業者は「市内移動の充実」「プロモーションの強化」「自然環境の保全」が他より高くなっています。

＜観光振興が進むことで心配される影響＞

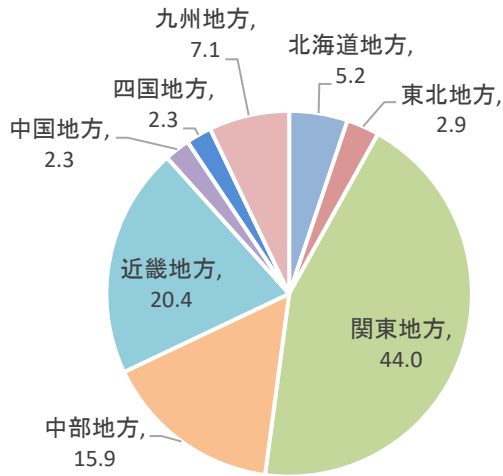
- 事業者、観光客は「自然環境の破壊が進む」が「市民」より高くなっています。
- 事業者は外国人観光客への対応も高くなっています。
- 市民は「交通渋滞・路上駐車」「住環境」「新型コロナの感染拡大」が高くなっています。



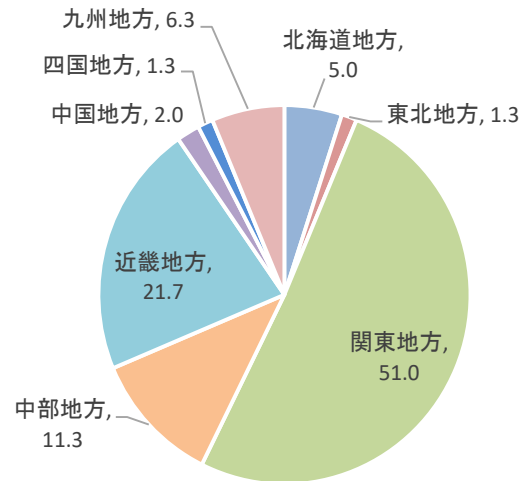
(1) うるま市の来訪属性

■居住地は「関東地方」が多く、次いで「近畿地方」が多くなっています。

■過年度と比較すると「関東地方」、「近畿地方」のみが増加し、その他の地方が減少しています。



【H28 年度県外観光客 (n=309)】

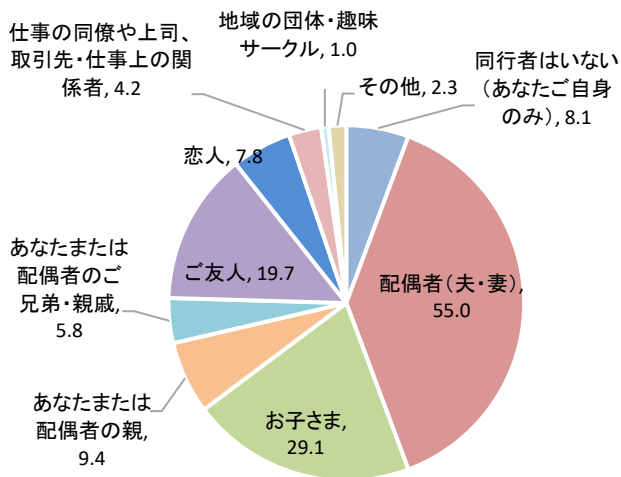


【R4 年度県外観光客 (n=300)】

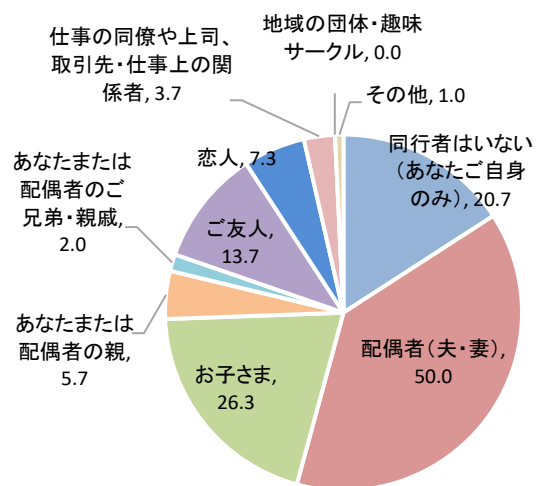
(2) うるま市の来訪属性 (同行者)

■同行者は「配偶者」が最も多く、次いで「お子さま」が多くなっています。

■過年度と比較すると「同行者はいない」が増加しています。



【H28 年度県外観光客 (n=309)】

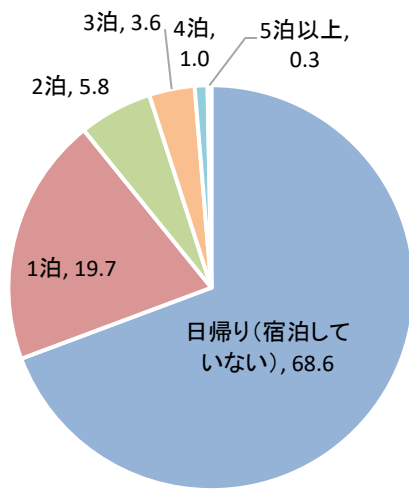


【R4 年度県外観光客 (n=300)】

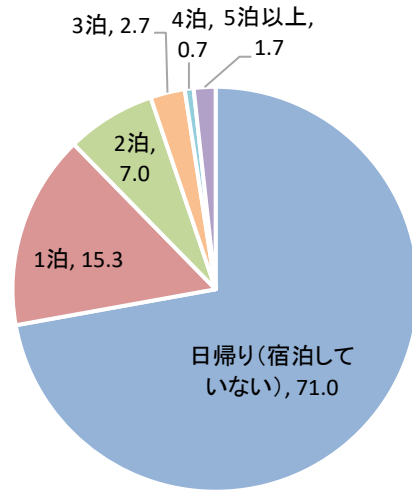
(3) うるま市内の泊数

■うるま市内への泊数は「日帰り」が最も多く、次いで「1泊」が多くなっています。

■過年度と比較すると「日帰り」「2泊」「5泊以上」が増加し、「1泊」が減少しています。



【H28 年度県外観光客 (n=309)】

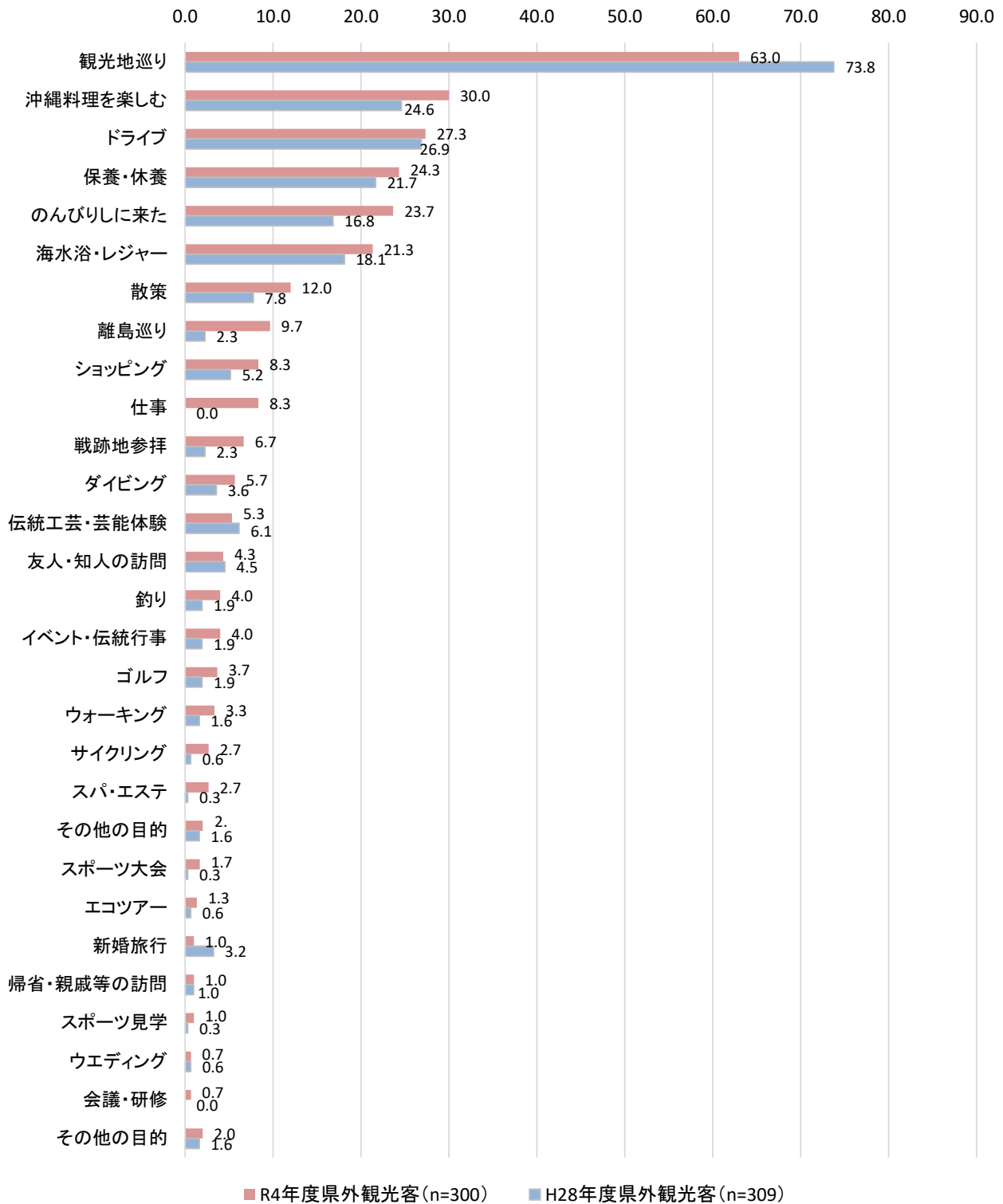


【R4 年度県外観光客 (n=300)】

(4) うるま市への来訪目的

■「観光地巡り」が最も多く、次いで「沖縄料理を楽しむ」などが続いています。

■過年度と比較すると「観光地巡り」が減少し、「仕事」、「離島巡り」が増加しています。

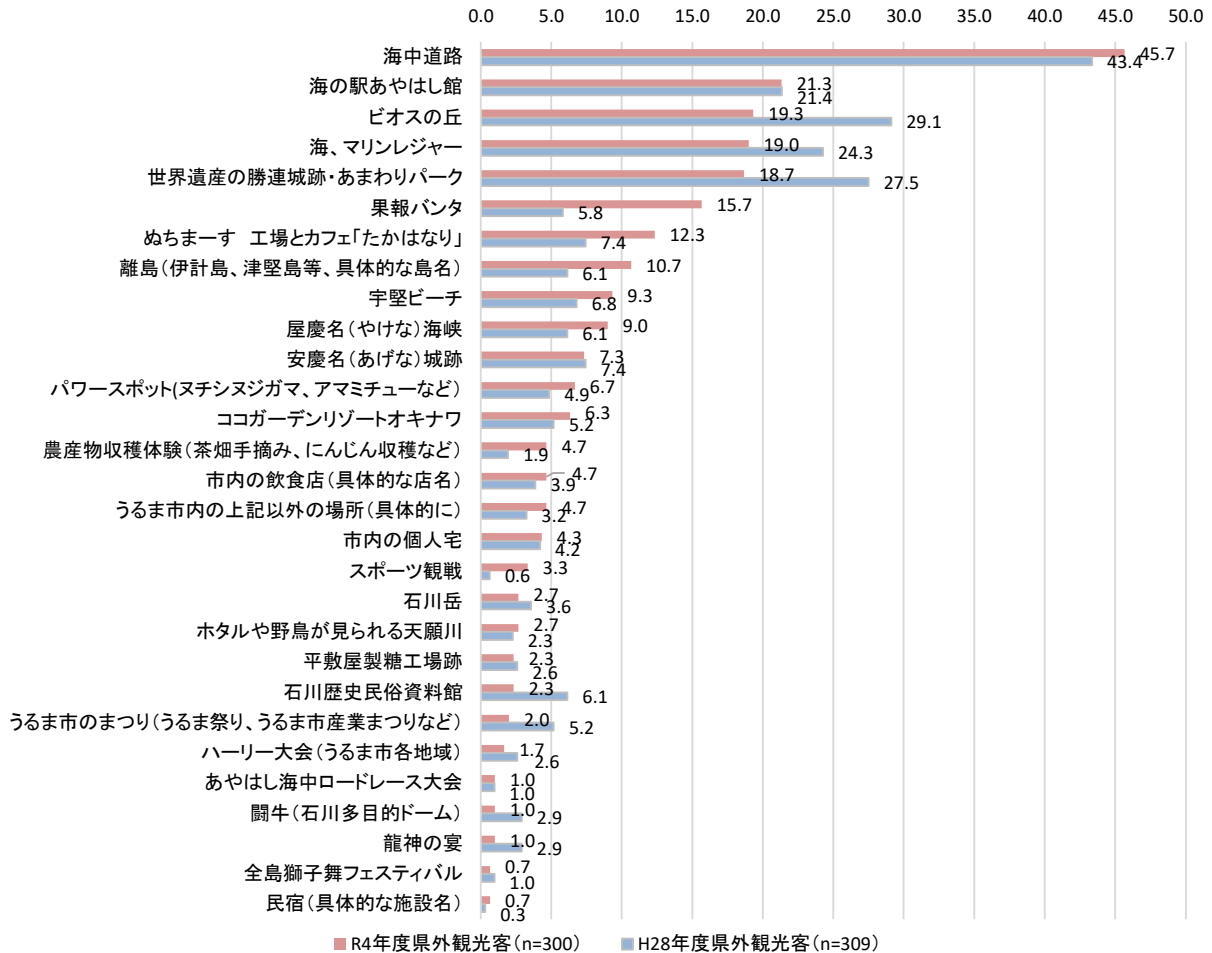


(5) うるま市内の訪問箇所

■「海中道路」、「海の駅あやはし館」、「ピオスの丘」への訪問が多くなっています

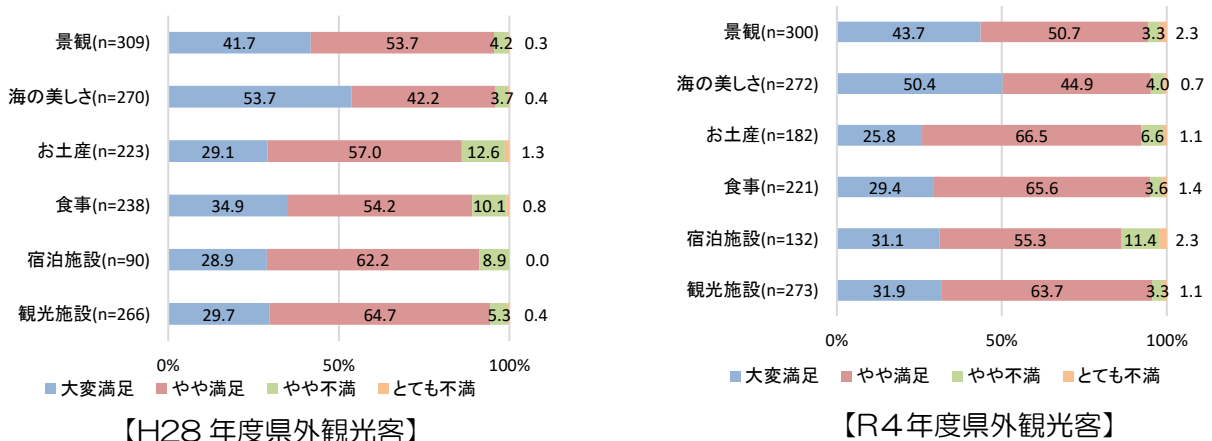
■過年度と比較すると「果報バンタ」「ぬちまーす」「離島」が増加しています。「ピオスの丘」「海、マリンレジャー」「勝連城跡」は減少しています。

※【平均訪問箇所数】令和4（2022）年度：2.6箇所、平成28（2016）年度：2.4箇所



(6) うるま市観光の満足度

■満足度の傾向は過年度と変わらず、大変満足 of 割合は、「海 of 美しさ」が一番多く 5 割を超えています。次いで「景観」となっています。過年度と比較し、「土産」、「食事」 of 「大変満足」は減少しているものの、やや不満・とても不満 of 割合も減少しています。



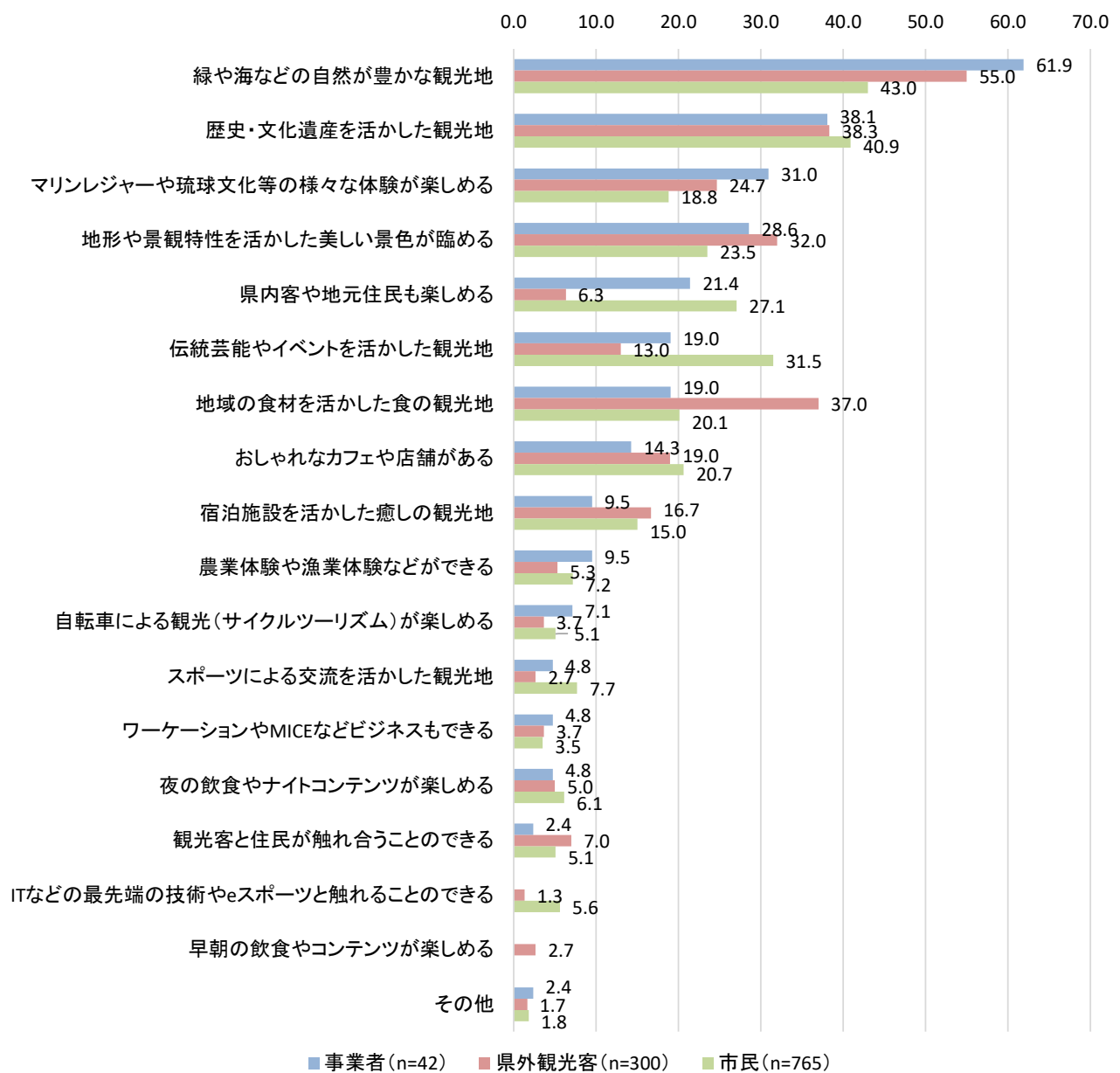


<観光客・市民・事業者アンケート調査より得られる示唆>

観光客・市民・事業者アンケート調査結果から、うるま市の今後の観光の方向性等において、各視点からの意向を整理しました。

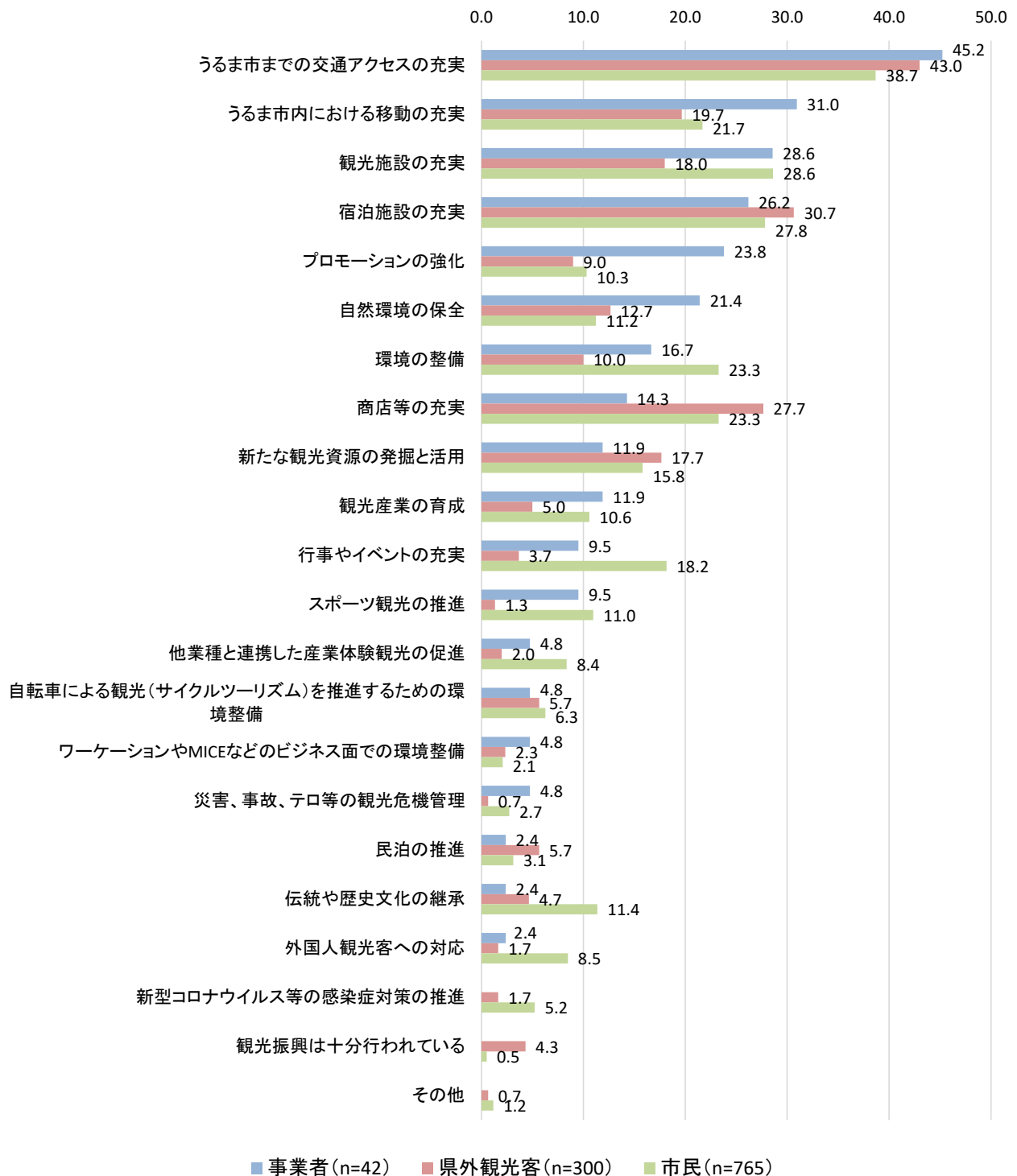
(7) うるま市観光の将来像

- 観光客は「地域の食材を活かした食の観光地」が他より多くなっています。
- 市民は「県内客や地元住民も楽しめる」「伝統芸能やイベントを活かした観光地」が他より多くなっています。
- 事業者は「緑や海などの自然豊かな観光地」「マリレジャーや琉球文化等の様々な体験が楽しめる」が他より多くなっています。



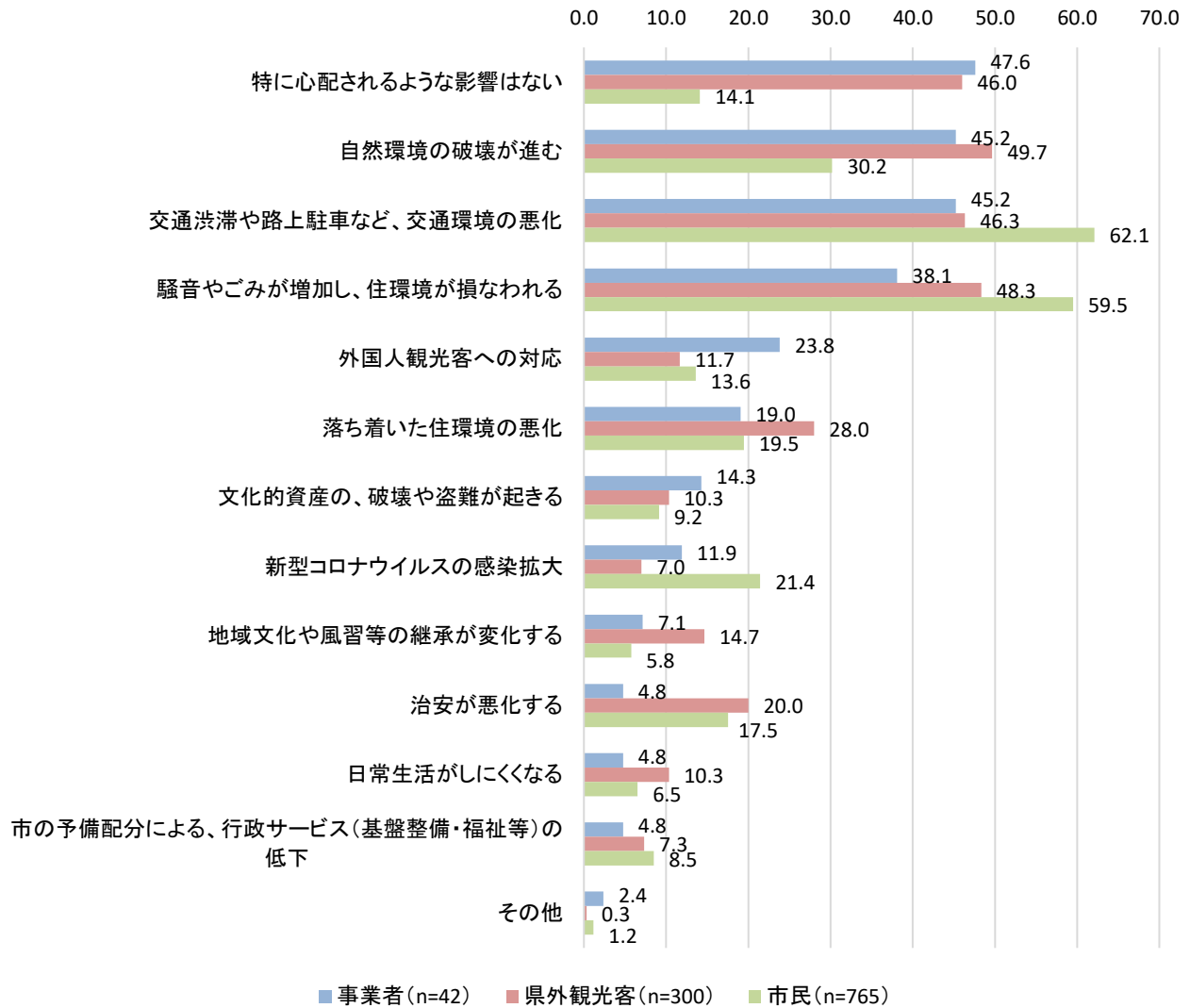
(8) うるま市の観光振興に必要なこと

- いずれも「交通アクセスの充実」は最も多くなっています。
- 観光客は「商店等の充実」「宿泊施設の充実」が他より多くなっています。
- 市民は「環境の整備（地域の美化等）」や「行事やイベントの充実」「伝統や歴史文化の継承」が他より多くなっています。
- 事業者は「市内移動の充実」「プロモーションの強化」「自然環境の保全」が他より多くなっています。



(9) 観光振興が進むことで心配される影響

- 事業者、観光客は「自然環境の破壊が進む」が「市民」より多くなっています。
- 事業者は外国人観光客への対応も多くなっています。
- 市民は「交通渋滞・路上駐車」「住環境」「新型コロナの感染拡大」が多くなっています。



## 4. 改定前ビジョンの振り返り

### 4.1 目標値の達成状況

第2次うるま市観光振興ビジョンでは、以下7つの数値目標を位置づけています。計画の目標値の達成状況は以下の通りです。

表：第2次観光振興ビジョンの目標値と実績値の比較

指標	基準値	目標値 (R3)	実績値 (R3)	対目標値比
指標1 うるま市へのリピーター率 (県外観光客)	30.9%	50%	60.9%	10.9%
指標2 沖縄県への来訪者がうるま市へ来訪する割合 (県外観光客)	13.9%	23%	16.7%	-6.3%
指標3 主要観光施設の入場者数 (あやはし館と勝連城跡)	355,051 人	430,000 人	133,583 人	-294,417 人
指標4 一人あたり市内観光消費額 (県外観光客)	お土産：2,826 円 飲食費：3,030 円	お土産：3,730 円 飲食費：4,000 円	お土産：2,729 円 飲食費：3,056 円	お土産：-1,001 円 飲食費：-944 円
指標5 うるま市内の宿泊日数 (県外観光客)	0.6 泊	0.8 泊	0.6 泊	-0.2 泊
指標6 うるま市観光の満足度 (県外観光客)	お土産：62.1% 食 事：68.6%	お土産：75.0% 食 事：80.0%	お土産：79.3% 食 事：72.2%	お土産：-0.7% 食 事：-2.8%
指標7 うるま市で食事をしている人、お土産を購入している人の割合 (県外観光客)	お土産：72.2% 食 事：77.0%	お土産：80.0% 食 事：86.0%	お土産：49.7% 食 事：65.8%	お土産：-30.3% 食 事：-20.2%



表：第2次観光振興ビジョンの目標値の達成状況及び評価  
 (評価 ○：中間目標値超え、△：一部未達、×未達(数値の見直しが必要))

指標	達成状況	評価
指標1 うるま市へのリピーター率 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>リピーター率は大幅に増加。コロナ禍における、うるま市来訪者を対象としているため、リピーターの割合が過年度調査より高い傾向にある。</li> </ul>	○
指標2 沖縄県への来訪者がうるま市へ来訪する割合 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>うるま市への来訪割合は県外観光客を対象とし、累積値となるため、今後増加が見込まれる。令和3(2021)年度の割合は、基準年を上回る結果となったが、目標値には達していない。</li> <li>それ以外の年度では基準年を下回っている。</li> </ul>	△
指標3 主要観光施設の入場者数 (あやはし館と勝連城跡)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、入込客数は大幅に減少している。令和3(2021)年度の入込客数は、緊急事態宣言などの影響により、基準年の半数以下、目標値の1/3の入込となっている。</li> <li>今後、アフターコロナによる観光客の回復により、令和3(2021)年度以上の入込は見込めるが、基準年、目標年までの入込まで回復するかは不透明である。</li> </ul>	×
指標4 一人あたり市内観光消費額 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>土産代は3千円弱、飲食費は3千円程度で推移しており、目標値の金額までは達していない。新型コロナウイルス感染症対策の観光振興施策により、沖縄県では令和2(2020)年度、令和3(2021)年度の飲食費は増加傾向にある。</li> </ul>	△
指標5 うるま市内の宿泊日数 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準値の0.6泊から1泊弱で推移しており、平成30(2018)年度は目標の0.8泊を上回っている。</li> </ul>	○
指標6 うるま市観光の満足度 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>お土産、食事ともに満足度は目標値まで達していない。利用者の満足度が低下しているのではなく、滞在時にお土産未購入、食事をしていない観光客の割合が増加し、相対的に満足度が低くなる傾向にある。</li> </ul>	△
指標7 うるま市で食事をしている人、お土産を購入している人の割合 (県外観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>お土産、食事ともに購入率は目標値まで達していない。お土産に関しては基準年の割合が非常に高く、目標値の見直しが必要である。また、指標6の未利用者の値と同じ傾向であることから、指標の統合も必要である。</li> </ul>	—

## 4.2 施策の進捗状況

第2次うるま市観光振興ビジョンの展開施策の実施状況を確認するとともに、計画の推進状況について調査・検証を行い、改定に向けた評価を行いました。

第2次うるま市観光振興ビジョンで掲げた12の基本施策に対する36の施策の進捗状況は、「継続実施」：6施策、「一部内容を変更して施策継続」：23施策、「実施体制を見直して施策継続」：5施策、「他の施策への統合」：1施策、「施策の実施が困難」：1施策、「完了」：0施策という状況です。

特に、重複する取組みの施策が含まれることから、他の施策への完全統合、一部内容を変更して複数の施策の統合を図ることが求められます。

### ▼第2次うるま市観光振興ビジョンの施策の取り組み状況（1）

◎：継続実施／○：一部内容を変更して施策継続／●：実施体制を見直して施策継続／▲：他の施策への統合／×：施策の実施が困難／－：完了

基本方針	基本施策	施策	評価
基本方針1. うるま市の統一イメージ形成	1.1 うるまブランドの構築	①世界遺産勝連城跡の魅力と価値の向上	○
		②海中道路から島しょ地域の魅力づくり	○
		③闘牛などのうるまらしい伝統文化・芸能を活かしたまちの魅力向上	○
		④食の魅力づくり	○
	1.2 効果的な情報発信	①メディア戦略の展開	○
		②インターネット等を利用した魅力的な情報発信	○
基本方針2. 美しい観光まちづくりと観光機能の充実	2.1 美しい自然景観とまちなみ整備	①緑でつなぐ沿道整備	◎
		②うるまらしいまちなみづくり、自然景観保全	○
		③環境基本計画に基づく環境の保全と創出	○
	2.2 観光拠点の魅力創出と機能強化	①あやはし館、ロードパークの魅力創出と機能強化	◎
		②勝連城跡周辺整備の推進	◎
		③石川IC周辺整備の推進	○
	④島しょ地域の魅力づくり	○	
	⑤アクセス機能の強化	○	
	⑥その他の観光関連施設整備の推進	○	

## ▼第2次うるま市観光振興ビジョンの施策の取り組み状況(2)

◎：継続実施／○：一部内容を変更して施策継続／●：実施体制を見直して施策継続／  
▲：他の施策への統合／×：施策の実施が困難／—：完了

基本方針	基本施策	施策	評価
基本方針3. 地域の魅力を 活用した観光 消費拡大の仕 掛けづくり	3.1 観光消費の拡大	①地域資源の掘り起こしと着地型観光の推進	○
		②食のコンテンツづくり、観光と農業・水産業の連携	○
		③着地型観光プログラムの開発、販売	●
	3.2 滞在型観光地へ の転換	①宿泊施設の確保	○
		②地域特性を活かした滞在型観光コンテンツづくり	○
		③スポーツツーリズムの推進	◎
		④MICEの推進	○
	3.3 通年型観光の推 進	①既存イベントの継続推進	○
		②新規イベントの開発と誘致の強化	○
基本方針4. 観光推進体制 の構築とマー ケティングの 推進	4.1 観光動向調査・ 分析	①観光統計データの収集・整理と観光動向・消費動向 の分析	●
	4.2 中核人材の育成 と観光推進体制 の構築	①データ分析に係る人材確保、育成	▲
		②うるま市版DMOの検討	×
	4.3 広域連携の構築	①東海岸ルート形成における広域連携の推進	◎
		②恩納村エリアからの誘客連携	◎
		③クルーズ船受入れに関する連携	●
基本方針5. 受入体制整備 とおもてなし の充実	5.1 受入体制の整備	①観光案内所の設置	○
		②外国人観光客の受入体制整備	○
		③観光危機管理対策の推進	○
	5.2 おもてなしの充 実	①ユニバーサルツーリズムの推進	●
		②専門的な人材の確保と育成	○
		③シビック・プライドとおもてなしの醸成	●

### 4.3 過去5年の総括

第2次うるま市観光振興ビジョンの36の施策の取り組み状況から、過去5年間の総括及び、本ビジョンへの継承に向けた課題の整理を行いました。

12の基本施策に対する、本ビジョンへの継承に向けた評価を踏まえ、継承すべき施策については継続的な取り組みを推進していきます。

#### ▼第2次うるま市観光振興ビジョン改定版への継承に向けた課題

基本方針	基本施策	第2次うるま市観光振興ビジョン（改定版）への継承に向けた課題
基本方針1. うるま市の統一イメージ形成	1.1 うるまブランドの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝連城跡、肝高の阿麻和利、闘牛、伝統エイサーなどの独自の文化、歴史、海中道路からの景観等のさらなるブランド化に向けたコンセプトの設定</li> <li>勝連城跡周辺整備の活用（PFI等への取り組み、都市公園の整備）</li> <li>もずく、津堅人参、黄金芋、ピーグなどの名産品等を活用</li> </ul>
	1.2 効果的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なメディアを活用した戦略的なプロモーション</li> <li>ターゲット設定を意識したメディア広報</li> <li>観光大使の有効活用・地域キャラクターの活用</li> <li>市、観光物産協会のプロモーション活動の棲み分け</li> <li>観光情報を正確に分かりやすくする仕組みづくり（SNS等）</li> </ul>
基本方針2. 美しい観光まちづくりと観光機能の充実	2.1 美しい自然景観とまちなみ整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光に資する景観形成（伊計島）</li> <li>地域住民の生活の妨げにならないマネジメント、持続可能な観光地形成</li> <li>公民連携（P-PFI、設置管理許可等）による公園の観光利用</li> </ul>
	2.2 観光拠点の魅力創出と機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>あやはし館とロードパークの一体的な連携を推進</li> <li>旧石川庁舎、旧与那城庁舎の活用、まちづくり計画の連携</li> <li>観光客も利用可能な公共施設間連絡バスの路線、時刻表見直し</li> <li>環境に配慮した交通整備、MaaSの推進</li> </ul>
基本方針3. 地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり	3.1 観光消費の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の掘り起こし、観光資源データベースの構築・活用</li> <li>観光客への地域消費拡大に向けた周遊観光の促進</li> </ul>
	3.2 滞在型観光地への転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな観点（ワーケーション、サンライズ観光等）の推進</li> <li>プロ野球のキャンプによる誘客、スポーツを通じた交流促進等による地域活性化</li> </ul>
	3.3 通年型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客のイベントに対するニーズの把握</li> <li>関係各課及び関係団体が連携したプロモーション活動の推進</li> </ul>
基本方針4. 観光推進体制の構築とマーケティングの推進	4.1 観光動向調査・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>市観光部局と観光物産協会の分担の明確化</li> <li>観光誘客のターゲットの明確化</li> </ul>
	4.2 中核人材の育成と観光推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光物産協会の在り方や役割、体制の明確化・強化</li> <li>データの詳細分析が可能な人材育成及び確保</li> </ul>
	4.3 広域連携の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接市との連携（プロスポーツキャンプ・イベント関係の沖縄市）</li> <li>クルーズ船寄港時の体制の構築</li> </ul>
基本方針5. 受入体制整備とおもてなしの充実	5.1 受入体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>多言語化、キャッシュレス化、Wi-Fi等の整備推進</li> <li>観光案内所の整備（あまわりパーク周辺／ロードパーク）</li> </ul>
	5.2 おもてなしの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>着地型観光推進の人材育成、地域的なガイドの育成</li> <li>うるま祭り等によるシビックプライドの醸成</li> </ul>